繪本通俗三國志 七編 三

へ21
221
63

東京學校
221
63

繪本通俗三國志七篇巻之三

目錄

孔明五出祁山
木門道萬弩射張郃
孔明六出祁山

繪本通俗三國志七編卷之三

孔明五出祁山

孔明兵を退け竈を増の法を用ひて。易こと漢中へ志りぞき回り。諸軍をおゆく賞して後みづから成都に到り。帝に奏してやけるは老臣祁山の戦ひに打勝て長安を取んとせるに。如何なる大事の出来て。右やし返しなんぞと云ければ後主劉禅宣ひけるは朕久しく丞相にあへざして心の内。たゞあへど慕へり。しのゆへに召回しぬ。別にあんぞ仔細あらん。孔明が曰く。これ定て陛下の本心より出るにあらざ必悪人ありて。臣に謀反の企ありと。讒をなしたるならん。後主またゝ心き詞なく。黙然として居るへば孔明又曰くもし内う

奸邪の人ありてハ臣安んぞ敵を討ん。後主宣ひけるハ。これ
内官乃そのどもが早くやし返せと勸しに依てなり。今日
朕が疑の意開たり。後悔されども及ばず。孔明怒て内官
を尽くよび出し。何故に天子に勸たると責けれバ。苟安が
為なりとやしそのあり。孔明きうに是を捕んとするに早
魏の國へ逃去しかバいよ〳〵怒て。妄に諂し内官を斬殺して。
その外乃そのどもを。宮外へ逐出し。蔣琬費禕を責てやり
けるハ。倭人ミだりに我を讒さ。汝二人なんぞ。天子を諫や
ざる。二人告て曰く。某もとより此事をしらざ。孔明。百官を
正して。又漢中へ打出。永安城へ檄文をもせて。李嚴に兵粮
を運送せさせ。諸將をあつめて。魏を伐の計を議するに。楊

儀が曰く。亟相しバ〳〵師を出しるひて。前にハ怨を含る士卒
おかかりき。不如兵を二つに分て。半を漢中にとゞめ。三月だら
りに休息せしめ。今二十万の勢をまづ十万余騎にて進発し。
三月の内ハ日を用ひて。しだひ〳〵に交代せしむべし。これ一日
落れバ月昇り。日出れバ月没の状なり。此のごとくならバ蜀の
勢乏からざして。長久の計ならん。孔明笑つて曰く。これま
とに我意に合りとて。即時に軍勢を二つに分ち。百日がハ
りに交代せしむ。この日限を。三日たがんバ。五十杖むち打。五日こ
がへバ。百杖十日たがんバ。首を刎んとて。建興九年春二月上旬
に一半の勢を引て。祁山を望んで進発す。時に魏の大和五年。
曹叡朝に出ゐへバ。近臣奏しけるハ。今長安より急を告て。蜀

の勢。又討て出とりと報じきたれり。曹叡おどろきさうは
司馬懿をやしてやけるは。今辺庭急を告て。蜀の勢又出と
りと注進す。汝されは打向て。いまだその根を平げば。今
いかしてかれを破らん。司馬懿が曰く。曹真さでは死去せ
る上は臣力を尽して敵を滅し。陛下の恩を報ずべし。曹
叡大によろこび。酒宴を設けて計を議するなり。又早馬
きたり。蜀の仇さでは急なりと告ければ。曹叡みづから司
馬懿を城外に送る。司馬懿直に長安へ到り。諸方の勢を
あつめて。手分を定めければ。左将軍張郃が曰く。某ならば
一軍を引て。雍郿の城を守り。蜀の勢を拒ぐべし。司馬
懿が曰く。それ味方おちくの大将をえるは。先手はさらんぞ。

敵を破るべきもの。御辺より外にあるべしとおもいざ。若雍
郿の城を守ては。大将の任にあらず。我足下と志を立て。
國恩を報ぜん。足下総軍の先鋒たるべきか。張郃が曰く。
某もとより。忠義を尽し。国のために命を捨んとおもいて。今
幸に都督のために用ひらる。万死もおんぞ。辞するとあ
らん。司馬懿さあいち。張郃を大先鋒とし。郭淮に隴西
の諸軍をまもらせ。渭水の前に出張す。このとき孔明は王平
張嶷を先手として。陳倉より出て。劍関をさして散関を
経て。斜谷ようさしむ。司馬懿が兵を引て出るとき。蜀の
先陣さでは。祁山を取ければ。司馬懿。諸大将をあつめて
曰く。我量に孔明にあらざ。隴西に行。青麦を刈て兵粮の

廿四人之猛將

孔明
關興

魏延
司馬懿

馬岱
孔明
姜維

資となさん。我自ら郭淮ホと。天水の諸郡を守り。蜀の勢の麦を刈んとするを討破るべし。張郃ハ其の渭水を守て。祁山の敵にあたるとて。四万余騎を分與へ自ら大軍を引て。隴西へぞむかひける。孔明ハ後陣の大勢を率して。已に祁山の陣に出。渭水の岸に魏の勢の守あるをみて。諸大将にかけるハ是必ず司馬懿が勢あらん。我量に李嚴が方より運び送る兵粮も。四五日ハ延引すべし。然とおハ兵粮今不足なり。幸に隴西の青麥やうやく熟さらん。密に其を刈取べし。王平。張嶷。吳班。吳懿ハ祁山の陣をかこめて魏の勢を拒げ。其ゆゑ諸大将を引てまづ歯城を攻落し。青麥を刈んとて。大軍を引て。隴西にむかひければ歯城を固めたる。魏の大将。孔明が来るをみて。門を開て降人に出。孔明。問て曰く。其の地いづくか麥熟せるか。答て曰く。隴上麥熟して。上面ばとに盛なり。孔明さあらば張翼。馬忠を止て歯城を守らせ。自ら隴上へ出けるゆゑ。先陣より報じて。魏の大勢其の所に陣を取て。司馬懿が旗を打立てひかへけとかさ。孔明大に駭て曰く。其の人とてに我来て麥をしんことを量知り。よのはなにては叶まじとて沐浴して身をきよめ常にゆゑ乘るに少も違ざる。四輪の車を四輌とり出し。我兼てその用意ありとて。一川の車にハ姜維をのせて千余騎の兵に車を守らせて。五百の勢に鼓を持せ。是を上卦の後に伏置。二番に馬岱を車にのせて。右に伏せ三番に

魏延を車にのせて左に伏せ。ミな千余騎の兵に車を守らせ。五百の勢に鼓を持せ車ごとに屈強のものを択んで二十四人。ミな跣足にして。皂き衣を着し。髪を乱し。劍を執て左右に相並んで車を推尽く手に七星北斗の旗を持。天兵のごとくにぞ見せたりける。四番に孔明ゑびから車にのり。初のごとくに出立せて。関兵を結束して怪げなる体にあり。天蓬の模様にして。手に皂き七星の旗をとり。歩立にて車の前にゑ、従ハせけるその外屈強の勢。三万余騎に繩鎌を持せ。隙を伺て変を刈む。扨孔明ハ例の車を推せて。魏の陣にむかひけるぞ。斥候の兵大に駭き。人ともゑんぞ鬼ともゑんぞ膽を冷して。司馬懿に報ず。司馬懿みびから出て望見るに孔明簪冠をいたき鵝

鞶を被て。手に羽扇を持。車の上に端坐して。二十余人髪をさばきたる兵跣足にして劍を執。まんに一人の大将あゆーげなる態にて。手に皂き旗を持。隠くとして。天神のごとくなりけるぞ。司馬懿怒びて曰く。又孔明が妖たるぞ急にかかりて。人も車も微塵にせよとて。二千余騎の精兵を出して。討しめんとす。孔明ゑるを見て。乗たる車を取て回し。志びくと引退く。魏の勢。勝にのびて馬を飛して。おびかくるに。何ともなく。陰風にハかに吹起り。霧たちさはじく立掩て。孔明が車目の前にあるとも。追付て能ず。魏の兵馬をとゞめ驚てゆけるハ。奇怪く。我ホ馬を飛て追て三十余里。孔明が車志びくと行て前にあり。追付

こと能はざるは何事ぞ。孔明。魏の勢乃住りたるをみて。ゆゑに車を返して。進ミ来ければ。魏の勢心疑ひ。良久しく。望居けるが車已に近付たるをみて。二千余騎おめと喚ひ蒐たりけるに孔明又車を取ひ回し。志げくと退きければ魏の勢。又二十里追に車は元のごとく前にありて。肯て追付ことなし。諸人もあはざ心を迷はし。是徒事にあらずとて。一所に馬をひかへければ。孔明又車を返して進来ると。其に司馬懿馬をとばして弛来り。諸軍を制してやけるは。孔明よく八門遁甲の法を得ひ。六甲六丁の神を使ひ。日月を手に握り。乾坤を袖に藏す。今おれを追ども。追付こと能ざるは。六甲天書乃内の縮地の法なり。必ず追こと勿れとて。急に兵を退んとす

れば。忽然として左の山より鼓の声天地を動し。一彪の軍馬殺到す。司馬懿おどろひて。おれをみれば蜀の勢の中より二十四人皂き衣に髪をさばき。跣足にして。劒を執一輛の四輪車を推出してその上に孔明簪冠をいたゞき。鶴氅を被ひ手に羽扇を持ひ端坐せり。司馬懿大におどろひて曰おれにも又孔明あり。追てみよとて。五十里余追ども。車は前にありて追付ことを得ず。司馬懿馬をさゞめて。怪哉くといふところに忽然として右の山より鼓の声震動して。一彪の軍馬殺到す。司馬懿おれをみれば。又四輪車を推出して。左右二十四人初のごとく車をかし。孔明その上に端坐せり。司馬懿おどろき怕れ。諸将にむかひて。おれ徒事にあらずて必神兵なら

んと云ければ諸軍心乱れて震ひ戦く事は又鼓の声天地を崩して一彪の勢殺到しければ司馬懿魂を失ひ又孔明あるかとて是をみるに一輛の四輪車をおし出し孔明その上に端坐して左右二十余人その出立初のごとくなりければ魏の勢膽を冷して駭然たらずといふものなし司馬懿も人々鬼々の分をしらず前後左右に孔明ありければ勢の多少もしれがたく膽魂も身に添ず上邽の城にげしめる此間に蜀の勢三万人おもふまゝに青麥を刈て歯城の内にて乾たりける司馬懿は城中に入て三日の間出ざりしが蜀の兵退きぬと聞て人を出して伺はしむるに路にて一人の士卒を生捉来る司馬懿その縄をとき宥し何者ぞ明かに告よ

といふにその人答て曰く某は麥を刈たるものなるが馬を失ひしゆへに生捉れたり司馬懿が曰く四方に孔明ありて怪きものども出たりしは如何なる勢にてありしぞ答て曰く三方乃伏兵はこれ実の孔明にあらず姜維魏延馬岱なり二川の車を千五百の勢を付て その内五百人は鼓を打だゞ一番に進ぐ敵を誘き出したるが真の孔明なりと語りければ司馬懿天を仰ぐ長嘆し孔明神出鬼没の計ありとていよく怕て出ざりけれ浩和に副都督郭淮きたり某承る蜀の勢はさまで大勢にてはいはずと今歯城の内にて青麥を于ず味方の大軍ありと聞ば一人も生て回さじと云ければ司馬懿具に右の由を語る郭淮笑いて曰く ぞれ小の計は孔明ならずあざ

むき得ることども今已に手ぎはの程をしれさるさ事何ぞ言
に足べけんや某一軍を引て歯城の後を攻ん仲達は大
軍を引てその前を攻ぬ孔明ならざる擒とならん司馬
懿ぞの義に同じ二手に分れて推寄るこのとき孔明は歯
城の内にて麥を干せけるが忽ち諸將をやして曰く我量に今
夜は敵ならば夜討をなし幸に城の四方にある麥の盛なれば
兵を伏て討破らん誰か城を出て敵を討ん姜維魏延
馬岱馬忠ひとしく出て曰く某ホ祢がいくを行ん孔明喜び
姜維魏延におのく二千余騎を授て城外東南西北の両所に
伏置馬岱馬忠におのく二千余騎を付て西南東北の両所に伏
たゞ鉄砲を鳴すを合図に四方より出よとて孔明自ら百余

人を従へ鉄炮を持せて麥の中にぞ伏居たる司馬懿は大
軍を引て上邦を打立てでに久陽西に沈ければ心の内
密に喜び諸將にむかひてやけるは若白昼に城を攻べ必ず
敵の備あらん今夜おのれもよらざ夜討して其備あき
を攻べ城は低く壕は浅し立所に破るべしとて打寄ると
しく馬を乗放ち壕の中へ飛下すれさきに入らんとぞ争ひ
ける已に初更の比に至て郭淮が勢もはせ来り四方を囲で
同時に揉合せんとするを城中より数千の弩を一齊にそ
あち出してその矢雨よりも志げく大木大石を投かけく拒し
かべ切崖に着たる寄手の勢死するその数を志らざ魏勢
案に相違して少しひるむをに敵の合図と覚て鉄炮耳根に

まひぐきけるべ是はいかまと駭くあるに四方より火をかけて伏兵一度に起り哄を合せて前後左右を取捲けるべ城中にも鼓を打て哄を作り四方の門をさへと開て拔連て討て出内外より攻けるべ魏の勢あらんは泳べき散こに逃走て屍は遍野の草によれたり血は流て溝をあらん司馬懿はかくに囲を出小山の上に馬を留て敗軍の勢をあつめ又上邽の城に引退でき嚴しく守て出ざりけるべ郭淮来りてやけるは今蜀の勢と相對さること日久し是を退くべき計なし今夜よたたに負て手負三千人に餘るなりもしまゝ計をおこさんべからずに難儀に及ぶべし司馬懿が曰く我も甚だ苦めども孔明にかつべき計なし郭淮が曰く枚文をもせて雍州涼州の勢を

まねき力を併て戦ひ某一軍を引て劍閣を襲蜀の勢のうへる道を取切兵粮の運送をとゞめば孔明かあらずに破るべし司馬懿おもしろがひ急き檄文をもせて雍涼の勢を催しけるべ孫礼大勢を引て不日に来る司馬懿限なく喜び計を授て郭淮とともに劍閣をおそはしむ此とき孔明は歯城にありて枚日魏の勢の来らざるを見て急ぎ姜維魏延を召てやけるは今魏の勢の固く守て出ざるは一つには我刈取たる麥尽て兵粮に詰るを待二つには勢を分て劍閣を襲ひ兵粮運送の路を塞んと謀るあらん汝二人おのゝ一万余騎を引て劍閣の要害を守る魏の勢おもしろを見べ自志りそくべし二人兵を引て出けるべ長史楊儀告て曰く亟相さきに兵を二

魏延（ぎえん）張郃（ちょうこう）と戦（たたか）いいつそうまけて逃（にげ）て走（はしる）

手に分て。百日がうちに休みせんと宣へり。今已に日限に及び。
漢中の勢もはや打出しるよし。先達て中来れり。今さへに八
万の勢あり。其の内四万を分て。回らしめん。孔明が曰く。これ
已に法を出したれば。何ぞ一日も約を違ん。早くに代しめよ。
諸軍これをすて大に喜び。旅立の用意をさるゝ忽ち
早馬きたり。魏の大将孫礼雍涼の勢二十万騎を率して。郭淮
と劍閣に攻かゝる。司馬懿は生手の勢を弛て直に進で。其の有へ
かしよせんと告ければ。蜀の勢かそれ愕き。故郷を望んで哭かれ
といふものなし。楊儀これをすて急ぎ。孔明に告て曰く。魏の勢
来ること甚だ急なり。暫く代の勢をとゞめ置。其の敵を拒く
べし。孔明が曰く。我師を出して大将を用ひ士卒を使ふ。其

れ信義をもつて本とはたとひ戦ひに勝とも信義を人に失
ふべからず。今代るべき勢は尽く代しめよ。彼ホが父母妻子も
今や回ると門によりて相待べし。我今いかなる難儀におよぶと
も必ず信義を失ふまじと。その由を解たりければ。罰の勢
これをすて。ふ涙をながして曰く。丞相此のごとく恩を施し
ゆゑ。某ホ何ぞ。其危きをしらずから回るべき。願は命を捨て敵
を拒ぎ。丞相の徳に報ぜん。孔明が曰く。汝ホをでに日限におよ
べり。尽く回て休息せよ。諸軍いよ〳〵感激して。ふ城を出て
戦はんと勇ければ。孔明が曰く。汝ホ志ひて戦はんとおのせば
城を出て陣を取。敵の来るをまたば少しも足をためさせば急
にかゝりて討破れ。これ乃逸をもつて労を待の法なり。蜀乃

勢大に喜び勇ミ踊て相待ゐに雍凉の軍勢出来まり大勢ニ
こりんどもこゝ長途に疲れて。城近く来りてまづ向城を構へ
んとするに蜀の勢息をも継せず喚てかゝり。短兵急に挫ぐ。
魏の勢ハまゝを拒んと此かしまゝに勢を配るゐを。蜀の兵馬強
人壮んなれバ。弦立く。八方に相當り。黒烟を立て揉だり
しかバ討るゝその枝をしらず一支も支ずさんぐに成て。おち
行けり。

木門道萬弩射張郃

孔明信義をあらして三軍を激し。魏の勢を破て賀をなすと
ころに永安城の李厳。早馬を打て急を告けれバ孔明大に
愕き。何事ぞとて檄文をひらきゑるにその書に曰く。

近聞東呉令人入洛陽與魏連和令呉耳蜀幸呉未
曾起兵今厳哨知消息伏望丞相深謀遠慮早施良
図切勿怠忽

孔明心疑ひ諸将をあらめてやけるハ今李厳が注進をゐん
るに魏近比呉の國と好をむすび呉の勢を與して蜀を耳
しめんとハ若陸遜攻来らバ誰かしまゝを拒ぐものあらん。
我速かに國に回らんとて。祁山の陣に人を遣して。王平ホ
に下知を傳へ我しの不ゐにあらん間ハ敵あんて追蒐るまゝと。
あるまじとて。王平張嶷呉班呉懿二手に分まして祁山の陣を
収め。志げくと回らしむ。此勢をでに漢中へ入たるをゑて。孔明
ひそかに楊儀馬忠を呼で計を授け。一万余騎の射手を揃

て。劍閣の木門道に埋伏し。すが合図の鉄砲をきいて一斉に矢を放ち。きうに大木大石を投下して。其回る路を塞げと下知しけれバ。二人をでに打立たり。孔明又関兵。魏延に討ことを授て。後陣に打せ。城の上に虚く旗をさしあげ。内に柴を積で烟を立。人のありたる体にみんせて。尽く歯城をひきさらひ。木門道をさして退きける。魏の左将軍張郃ハ初より。渭水の陣を守りけるが。蜀の勢祁山を退きたるをみて。きうに上邽の城に来り。司馬懿にみへてやけるハ。今蜀の勢引退く。これ如何なる故ぞ。司馬懿が曰く。孔明ハ詐の計きいめて多し。我ホよくく要害を守り久しく彼が兵粮尽て回を伺ひ追かけて討破らん。張郃が曰く。都督いかなれバ孔明を虎乃

どくに怕れて天下の人に笑れしのぞ。司馬懿が曰く。兵法にも善戦不如善守といへり。孔明いま兵粮に乏し。彼が利さるをいきうに勝負を決さるにあり。我却て固く守て日を送る彼退屈せバ。かのづから走るべし。大将魏平外より来ハて。やけるハ只今蜀の勢祁山を立て。引退く。都督なにとて速かに追ぬぞ。司馬懿が曰く。これ孔明が計ことなり。汝ホ又すが下知を用ひざ大なる敗を仕出さん為かとて。固く制して追しめバ。次の日斥候の兵きたり告て曰く。歯城に籠たる蜀の勢ミな木門道をさして退きしり。城の内にも多少ハしらバ残り止る勢ありとみへ。司馬懿いまだ信せバ自ら行て望見に。城の上にかかく旗をさし挾で。内より烟起けれバ。大に笑ひて曰く。これ空

城なり。行てみよとて。人を入くみせしむるに果して一人もなし。司馬懿喜んでかけるに孔明いま引退くに必ず呉の國に変あるならん。追掛て討破るべし。張郃進ミ出て曰く。某ゆかくに先手に進まん。司馬懿が曰く。御辺は天性やの躁志なして烈火のごとし。畏くは先あらん。張郃が曰く。都督されに長安を出るとき某を第一の先鋒と志めたり。今日大功を立る時に至て却て用ひのはぬは何事ぞ。司馬懿が曰く。兵法にも皈師勿掩窮冠勿追とのたり。孔明いま國に回る。險阻のあるに必ず伏兵あらん。十分に行前を伺ひて敵の伏兵を心にかけておけばんば必ず大なる禍にあはん。張郃が曰く。我已に志を志す。少も慮を費しのまゝ。司馬懿が曰く。我量に御辺志を追ば

必ず大なる悔あらん。張郃が曰く。大丈夫身をもて國に報ず。死をとも何ぞ悔ることあらん。司馬懿が曰く。すでよくよ。おもふに汝必ず追ことあれ。別に大将を用ゆべし。張郃が曰く。その故いかん。司馬懿が曰く。御辺天性火の燒るがごとし。必ず孔明が計に中るべし。張郃声を励して曰く。孝は當に力を竭へし。忠はまさに命をすてゝ何ぞ惜むことあらん。司馬懿が曰く。御辺固く行んことをおもふ。今すでに五千余騎を択で御辺に授く。先手に進で敵を破れ。賈翔魏平に二万余騎を付て跡よりすゝめて敵の伏勢を拒がしめん。我もこゝから三千余騎にて追かくべし。張郃がだりなく喜び勇ミ踊て飛がごとくに追かけ。三十里あまり来るに忽然として後に哄の

声をあげて一手の勢林の陰より討て出一人馬を踊せて大音
あげ賊の大将何へか行。魏延ちゝあありとよばりければ張
郃きいとりて取て回して二三合戦ひけるに魏延詐負て
逃走る張郃きうに追かけ。二十里あまり来り馬を止めて
四方を能く伺ひしむるに敵一人もなへざりしかば又馬を飛し
て追ゐに忽然として山の後より哄の声起り蜀の大将関
兵一軍を引て討て出賊将逃ることなかれと呼ひりければ張
郃奮怒して馬を交へ十合あまりにして関兵きうに走りけ
れば張郃又おれを追かけ前に茂さる林ありければ伏兵や
あるとて下知して捜さしむるに敵一人もなし扨ハ心易しと
て飛がごとくに馳たりしかハ魏延忽然として谷の中より討

て出戦ひ十合あまりにして詐負てさんぐに走る張郃。氣
に乗て追蒐ければ関兵刀をまひして路をさへぎる張郃大に
怒りて又十合ばかり戦ひけれ。関兵馬を打てきうに走
る蜀の軍勢さへぎ乱れて鎗をすてて刀を落し甲冑を卸
すてさんぐに敗走しければ魏の勢ゝなり馬より下てあ
らそひ捿ふ関兵。魏延あるひハ戦ひ或ハ走り。日すでに
西山に傾き木門道の谷の口までおびきけるに張郃自ら真
さきにすゝみ敗将何まで逃るぞと呼ひりければ魏延又とゝ
て回し汝ハ乃ち叛逆の賊。すれハ是漢の名将。すれ汝を害
せざるに汝却て追来るハ何事ぞ。快く勝負を決せんやと
罵りければ張郃いよく怒り。鎗を拈りて突てかゝる魏延

又二十余合戦ひ冑を落して走りければ張郃直に木門道に追て入る仲達が戒をも今はや打忘れ谷の間に馬をはせて揉にのみで追ゐに後の山に鉄炮ひゞきければ魏乃勢色々に張將軍もはや回りるへと呼ゐりけれども更に耳にもきゝ入れず力を尽してはせたりけるに日已に昏て山の上に火のんいで大木大石を投下されと雨よりも急なりければ張郃大におどろき誤りて計に中れり早く出よと下知するに僅なる山間の小路を大木大石をもりて切塞ぎ両方へ岩石屏風を峙たるがごとくあれば進退路なくして如何せんとあきれたる所に一声の梆子ひゞいて両方の山上より万弩一斉に切て放つその矢雨よりも志げければ憐むべし

張郃百余騎の大將とこゝ谷の内にて射殺され立たる矢は簑毛の如し跡に続たる魏の大勢その路の塞りたるをみて張郃が計に中れるを志りきうに退かんとされば山の上より大音あげて諸葛丞相ありと呼ゐる魏の勢おどろいてあれをみれば孔明火の光の内に立すれ今日獵をなして馬を取んとおもひしに却て獐をゐたり汝ホ魏の勢心志げかに引退き仲達なるぞすが為にとりあらん能く兵法を学び来れとやをゝしと呼ゐりければ魏の大勢膽を失ひ魂を落して我されにと逃回り司馬懿に右と告ければ司馬懿哭き悲ミ天を仰で嘆ドて曰張郃が計れしへすが過なり諸將よく境を守れとて自ら

張郃

関興敗走して張郃を木門道へ誘く

関興

洛陽へ上りける。魏主曹叡は此由をきいて。大に哭き。敵國いまだ滅びざるに良将まづ死せり。朕いかゞせんと哀しければ群臣みな曰く。張郃は棟梁の才なり。今日已に亡ぶ國の棟梁折けるなり。諫議大夫辛毗が曰く。群臣いかなれば奏しけるぞ。昔し建安年中に万民みな天下一日も武祖なくんばあるべからずと云しが已に崩御しおはして。位を文皇帝に傳へ給ひし後は天下一日も文皇帝なくんばあるべからずといへり。文皇帝崩殂の後は今陛下龍のごとくに興りて國中文武の臣雨のごとし。何ぞ一人の張郃を失ふをもつて。左程に哀惜んやといひければ群臣みな口を閉。曹叡喜んで曰く。辛諫議が詞まことに當れりとて。木門道より屍を取上させて厚葬し

む。孔明は漢中まで引退き。成都へ入らんとせられしに尚書費禕勅使として来り急ぎ謁を請ひて對面せるに費禕申けるは近ごろ永安城の李厳みづから表を見て軍勢の兵粮はおびたゞしく運送仕るに孔明軍を收めて國に入んか。まへる謀叛の企あり と奏せしにより。天子某を勅使として。事の實否をきこしめさる所に孔明怪んで曰く。李厳。我に急を告て呉の勢をこぞて攻来るといへり我それ故にこそ回たり。費禕が曰く。李厳は却て丞相の逆心ある由を奏せり。孔明大に怒り。人を遣して其仔細を尋聞しむるに是乃ち李厳元より孔明が命を受て祁山の陣に兵粮を出しけるが其用意とゝのはず罪せられん事を怕れ暫く師を退

けさせんとて。詐ひて。其の計を用ひとるなり。孔明いよく怒
匹夫。己が失を飾のみならず。國家の大事を廃さて。首を刎と
いひければ費禕が曰く。先帝むかし孤子を李嚴に託しまゐ
り。丞相のし殺しまゐで天下の人物を容こと能ざるを謗ら
ん。己に大なる罪を犯しぬれば只官職を剥で一命を助ゆ。孔
明ありに従ひ費禕に表章を書せて天子に奏し。李嚴を先
朝の舊臣あるとのひて。死罪一等を宥され官を剥で庶人とな
し。梓橦郡に遠流せらる。其後孔明成都に入て。李嚴が子の
李豊を用ひて。長史劉琰ホと。兵粮を奉行せしめ軍馬を調
練して陣法を講ひせ。三年の間ハ師を出さず。政教正しく國か
さまりければ人民尽く恩徳を仰で孔明に事ても恰も天地父

母の如くなり。

孔明六出祁山

此三年の間ハ孔明師を出さず。成都にありて。軍民を恤ひける
が今年建興十二年。春二月。朝に出て奏して曰く。臣をでう
軍士を艱ても三年。糧草軍器尽く満足て。人強馬壮なり。是
と其を失なへず。早く魏を平げて。先帝知遇の恩を報ずべし
其のこびりし。奸賊を平げて。漢室を恢復せざんば誓て再び陛
下に見へゆへド。後主劉禅宣ひけるハ。今三國鼎足の勢ひ成て。
呉魏曽て寇をなさず。丞相なんぞ安坐して。太平を楽ざる。孔明
が曰く。臣三が年の間師を出さずといへども。寐覚にも。魏を伐の計
を思ざといふことなし。実に忠を竭し力を極て。陛下の為に中原を

恢復し。再び漢室一統の基を與さんし。時に一人ありて出。魏いま
だ伐べからざると呼ひりければ。諸人おもしろを見るに。譙周字は允
南いま太史の職に居して。深く天文地理を志まり。進出て奏
しけるは。臣司天臺の職を司る。禍福を奏せざんばあるべからず
ぞ。近ごろ數百の群鳥南より飛来りて。漢水に落て死す。是
大なる不吉なり。臣夜天文を見るに。奎星太白の分野にまとへ
れ。盛気いま北にあり。味方に利あらざ。魏いまだ討べからざ。まと
成都の人。栢樹の毎夜哭き哀むをきくものあり。箇やうの
事ども。ミな不吉の象なり。亟相よく謹で出のみてとゝかれ。孔
明が曰く。我先帝の遺命を受まさに力を竭して賊を討べし。
なんぞ風雲虚謬の兆をもつて國家の大事を廃べけんやとて。

自ら先帝の廟に詣して太牢の祭を備へ涙を流してやけれ
ば臣亮五度祁山に出て更に一寸の地をも得ざ。その罪軽
にあらざ。今又大軍をもんで。再び祁山に出んとて誓て
力を竭して賊を亡ぼし。惟死もんぞきのことにいふて。慇懃に祭
すり。朝を辞して出ければ後主みづから百官を率ひて。
城外に送りぬ。孔明まづ漢中に出て。人馬を調へ諸大
将を集るなり。龍驤将軍関兵病重して亡びたりと告け
れば孔明声を放つて大に哭き。昏絶して倒れけるが。半時
斗ありて甦り。可憐忠義之人天不肯與壽とふて長嘆き。
魏延姜維を先鋒とし時に李恢をこゝに兵粮を運んで斜谷
の口まで出たりと報じければ孔明三十四万の勢を五手に分て祁

山をさして進発す。魏主曹叡ハ去年摩陂の井中より青龍天に昇たるをもめて改元して青龍と号す。このとし青龍二年春二月蜀の勢三十四万五手に分ちて又祁山にいでたりと告けまゐ曹叡大におどろき司馬懿をめして問ひ曰く。孔明この三が年ハ軍を出さゞりしが今又祁山に出たり汝いかゞ計かある司馬懿が曰く。臣夜天文をみるに旺気北に盛にして味方に利あり彗星太白を犯して蜀の為に不吉之孔明已が才智を恃んで天道に背く。ことに自滅を招ける臣祢がいくさ陛下の洪福によりて四人の大将を伴ひ同く行て敵を破らん曹叡が曰く。汝たまをる伴ハん司馬懿が曰く。夏侯淵四人の子あり夏侯霸字ハ仲権夏侯威字ハ季権夏侯惠字ハ雅権。夏侯和字ハ義権なり夏侯霸夏侯威ハ弓馬に達して武藝に精し。夏侯惠夏侯和ハ六韜三畧を諳じて能兵法を志まり。此四人父夏侯淵が漢中にて討ましし恨をを散ぜんとて常に牙を嚼で居ひ臣祢がいくさ夏侯霸夏侯威を左右の先鋒とし。夏侯惠夏侯和を行軍司馬とし。これに軍機を助て孔明を退くべし。曹叡が曰く。さきにハ夏侯楙駙馬軍を出して若干の人馬を先ひ今に虚怕ま國に回らぬ。此四人も夏侯楙がごときの者にてハなきり司馬懿が曰く。この四人ことに夏侯楙と太ぶ違り。曹叡大に喜び司馬懿を大都督として凡大将士卒尽くその命に従がハしめ雒陽長安山東山西河南河北の勢を総領せしむ司馬懿恩を謝して

打立ければ曹叡ぞ城外に送り。ひそかに告てやける
は汝渭水の濱に陣を取たゞ固く守るを本として專ら敵
の鋒を挫しぎ若出て戦うはざるをみれば蜀の勢詐て引きり
ぞくことあらん卿よく。その虚実を伺ひ。ほしが兵粮尽て真
に退き回るとき虚にのりて。追討にせよ然るときは十分に勝を
をなて軍馬の疲労を免るべし。是長久を保の計なり。汝怠
たることなかれと。いひければ司馬懿頓首して勅を受直に長
安に出て。諸方の勢四十万をあつめ渭水を前に當て陣屋をか
まへ五万の勢を分て竹木を伐せ渭水の上に九ヵ所の浮橋
をかけて夏侯覇夏侯威二人は河より西に陣を張。又本陣の
後も東の方に廣き原ありければ城をかまへて用心をなし諸

将と計を議するに郭淮孫礼二人きたり見て曰く今蜀
の勢祁山にありて。水辺に陣を連ぬ若河を渡して。原にいで
北山を切塞で隴西の通路を止めば民夷動揺して由ゝしき大
事に及ぶべし。司馬懿が曰く。我真にいまを忘居たり。御辺二人
は隴西の軍馬を領して北原に陣をとり溝を深し。塁を高して
固く守り必ず出て戦ことなかれ只敵の兵粮尽て退くときを伺ひ
虚に乗て追討にせよとて。兵を分て緊く守らしむ孔明は祁山に
出て五ヵ所の陣屋を作り左右中前後に備ふ斜谷より劍閣
に至まで十四ヵ所に陣屋を陳て勢を分て守らしむ是乃ち久
く住ん為の計なり。毎日人を出して魏の陣を伺はしむるにたち
まち告て曰く。魏の大将郭淮。孫礼二人隴西の軍馬を領して北原

に陣を取ひ孔明乃ち諸將を集て曰く。今魏の勢北原に陣を取ハ隴西の路を塞ましんことを怕まて之。我今詐りて北原を攻る体をあさバ司馬懿などろいて来救ん。さまは却て虚に乘て渭水の本陣を攻取。敵の備あきを討ん。先木を伐て百余座の筏を造り上に乾ける柴を積水を得たる兵五千人を揃て夜中に北原に攻蒐らしめバ司馬懿ゑあらざ自ら救ハん。其とき引ちがんて我先手の勢ハ岸に上り。後陣の勢ハ流にのゝて筏を下火を付て渭水の浮橋を焼尽し。敵の後を攻させて我自ら。その前を攻ん。若渭水の南をとる時ハ味方の勢泰山よりも大ならんとて。能く諸將に計を授け。魏延馬岱を北原に向しめ吳班吳懿に筏を下して浮橋を焼せ。王平張嶷を先陣とし姜維馬忠を

中軍とし。廖化張翼を後備とし。三手に分まて。その日乃午の刻に祁山を立虚にのゝて。魏の本陣を攻んとす。去程に渭水の北に蜀の勢おもく筏を浮べたるよし。魏の陣に聞けまバ司馬懿諸大將をあゝめて曰く。孔明いま河の北に多の筏を浮べ北原へ攻ゝる体をあせども。我よく料に。その内ゑあらざ詐の計あらん。空く北原攻る体にて。却て水に従て筏を下し。我うき橋を焚落して。前後より本陣を攻る為あらんとて。夏侯霸夏侯威に命じて曰く。若北原に軍起りたるときゝバ汝二人渭水の南なる。山の陰に陣を取て。敵の来るを打破まし。又張虎。樂綝に命じけるハ。汝二人ハ二千の射手を調へて。渭水の浮橋を渡したる北の岸に伏て。敵筏を下して近付バ

孫権

費禕呉へきたり孫権と孔明の書を呈す

費禕

一度は出て射殺さんとして又北原の陣へ人を遣し孔明も
おしよせば其陣勢少して待て戦ひと叶はじ只半途は出て埋伏
し始は詐負て引退き敵追来らば射手を出して其ほとを拒
げ我水陸とも進んで救べしと下知しければ郭淮孫礼
計を受半途は出て敵を待たのとは蜀の兵尽打立て魏
延馬岱前後は備へ北原は攻かれば呉班呉懿は筏を浮べ焚
草を積で時刻を待とは日已は暮は及んで魏延先北原はお
しよせければ魏の大将孫礼兵を引て討て出詐負て引退く
魏延その計を疑て肯追ず少し退んとする所は忽然として
喊の声大は起り左は司馬懿右は郭淮いきおひは乗て蒐出引
包んで攻ければ蜀の勢さはぎ乱れて討るその枝を志らば

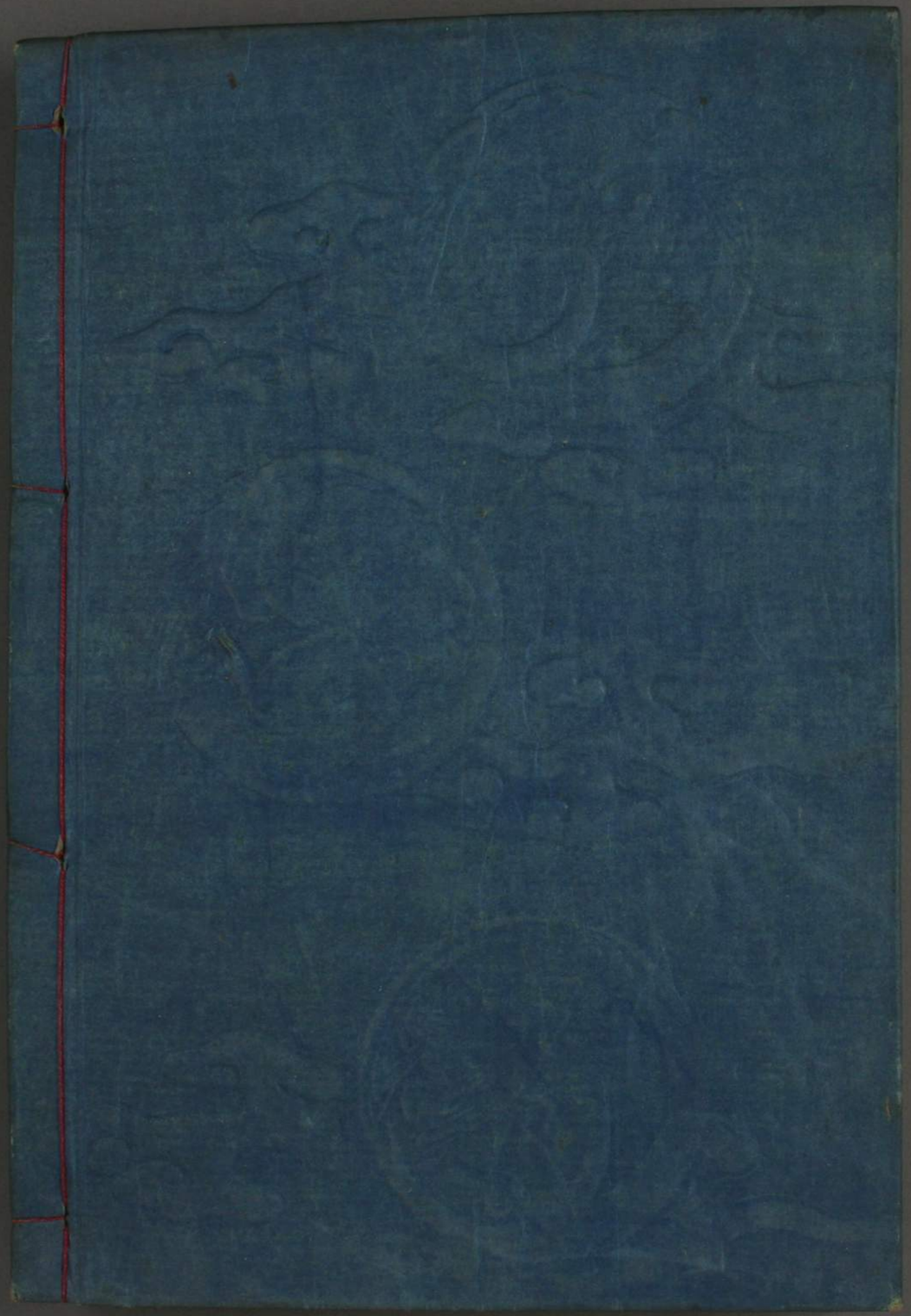
魏延馬岱命をさて戦ひたうく囲を出て走けるは魏の
勢きうは追かければ渭水の流はせき落されて人馬死する
その大半は及べり然れども呉懿一軍を引て来救ければ
蜀の勢ちがうは逃れて回りけり呉班たのとは流は乗ド
て筏を下し已は浮橋は近付ける所は岸の上より張虎樂
綝二千余騎にて殺出し指詰引詰さんぐは射たりけれ
ば蜀の兵死するものは枝を志らば大将呉班も水中は射殺
さる敗軍いよく乱れて尽く水中は滅びければ筏は魏の兵
は取れけり王平張嶷は味方の破たるをも志らば魏の本陣
は推寄けるが夜も已は三更の比は至喊の声はあるは聞ければ
王平が曰く味方北原の勝負いまだ志らば敵の本陣は今前

にあり。敵され程まで出ざるへ。万一味方の計を。司馬懿が推した
るにてはあまり。暫く待て様子を伺ひ浮橋に火の起るを
見て。一切に攻蒐らん。張嶷げにもと同じて相待ゐに忽
ち早馬きたり大音あげてよばくり。丞相の命なり軍を
収てたゞく退きまへ。北原も浮橋も味方にて打負たりと
告ければ王平張嶷大におどろき急に退らんとするゐ
に。魏の勢もとより後に伏て鉄炮をひゞかせ程なくあれ。
火の光天を焦して四方八面の勢尽く起る。王平張嶷大
音あげ此にて一拒ぎ拒ざんば叶まじ快く戦とて喚き
呼んで戦けるが大敵凌ぎがたければ蜀の勢大半討れ
て。散々にぞ逃たりける。孔明敗軍を収めて祁山に回り手負

討死を収るに一万人に餘ければ。心の内患ひ苦む長史楊儀
ひそかに告て。今魏延ふかく丞相を怨ミ我を用ひるにあらず
糞土のごとしとやひと云ければ孔明大に叱り我自志らざ
るにあらず汝猥に讒言することあらんとのみに楊儀怕れ
て退出すとそれに成都より尚書費禕きたりければ孔明
對面して曰く。まれ御辺を使として呉に行しめん。費禕が
曰く。丞相の命。まれたるんぞ辞せん。孔明をあはち書簡を
封じて呉の建業へ。なりむかしめければ呉主孫権よび入れて
對面し。その書を披見にその文に曰く

漢丞相武郷侯諸葛亮頓首再拝致書東呉皇帝陛下
漢室不幸王綱失紀曹賊簒逆蔓延及今皆思勦滅未

遂同盟亮受昭烈皇帝寄託之重敢不竭力不尽忠今大兵
已會祁山狂寇將亡於渭水伏望階下以同盟之義今將北
征共取中原同分天下書不尽言萬希聖聽可察
孫権見了のて甚よろこんで朕常に魏を伐んとおもひ幸に孔
明祁山に出たり朕自ら兵を引て居巣門より魏の合淝新
城をとり陸遜諸葛瑾ホに江夏沔口を討て襄陽をとらせ
孫昭張承を廣陵より出して淮陽を取しめん其勢都て三
十余万日を定て打立べしと云ければ費禕拜謝して曰く真
に此のごとくならば魏を滅さんこと百日の外に出ぬべし孫権酒宴
を設て重ねてまた費禕に問て曰く孔明陣中の先手は如何
なる人ぞ費禕が曰く專魏延を第一と仕りし孫権が曰く功

勞を記し兵粮の大事を司るは誰人ぞ費禕が曰く長史
楊儀なり孫権笑ひて曰く朕いまだ魏延楊儀をしらざるとは
いへども久しくその行状を聞知り是真に小輩なり國のた
めに益なし若一旦孔明なくんば此二人大なる禍をなさん
御辺なんぞ君の前にて深く論ぜざる費禕が曰く陛下の教
臣肺腑に銘じて忘るゝことなかるべしとて直に祁山に回りけれ
ば孔明問て曰く孫権いかに兵を起さるゝ費禕が曰く孫権みづか
ら三十万の勢を起し三路に分れて曰を択んで発向さる孔明
が曰く外に云しことはなきか費禕をあはち魏延楊儀を論せし
由を有のまゝに語ければ孔明嘆じて曰く真に聰明の君なり
我ちもこを知ざるにあらず其智勇の勝れたるを惜んで殺さ

ゝ志のびざ。費禕が曰く。丞相すく料ゝ人。孔明が曰く。我ゝ志ことを思ひて已ゝ久し。後必ず除べしとて費禕を成都ゝ回らしめ吳の勢の勝負をきろし。